

世帯の年間収入階級と世帯の種類、階級ごとの世帯数、一世帯当たりの居室室数数の関係

※ 一世帯当たりの居室室数とは、一世帯における生活できる部屋（トイレ、風呂などを除く）の室数を表している。

図1

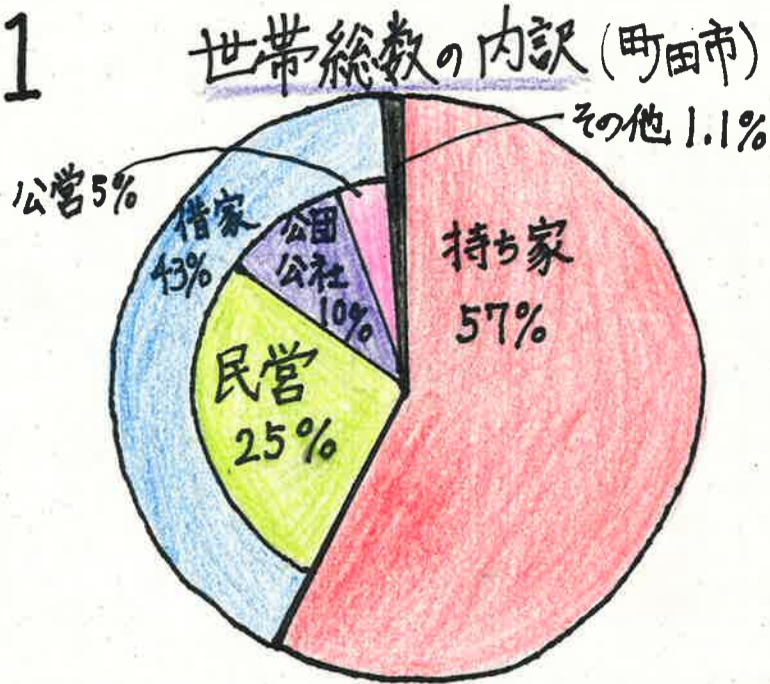


図1からは、全世帯のうち、自分の家を持っている割合や、家を借りている人の割合が読み取れる。また、借家のうち、民営のものや公営のものの割合なども読み取れる。半分以上が自分の家を持っている世帯であり、借家については、民営のものが特に多く、公営のものが少ないということが分かる。次の図2、図3からは、世帯の年収階級別の世帯数を見るとともに、持ち家の借家の割合も読み取る。(この図1を含め、全ての図は町田市の統計であり、標本調査のため、総数と内訳の合計が必ずしも一致しない)

図2

世帯の年間収入階級別の世帯数 (2013年)

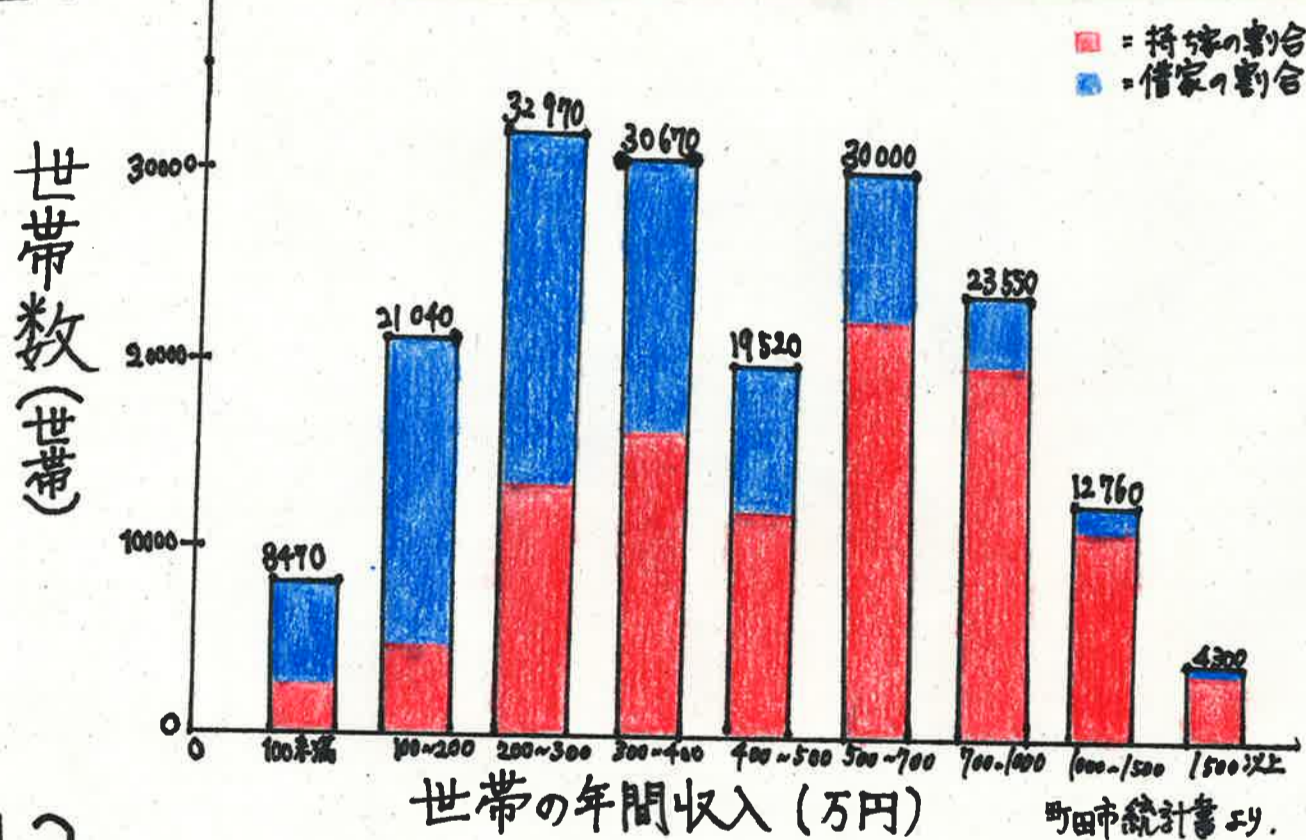


図2からは年間収入階級別の世帯数が読み取れる。特徴として、200万円~400万円程度の階級の世帯数が多い。また、その階級は持ち家よりも借家の割合が大きい。さらに、500万円~700万円の階級も世帯数が多い。こちらは借家よりも持ち家の割合が大きい。全体として、階級が上がるとともに持ち家の割合が大きくなっている。また、200万円未満の階級は、約8割が借家となっている。

図3

世帯の年間収入階級別の世帯数 (2003年)

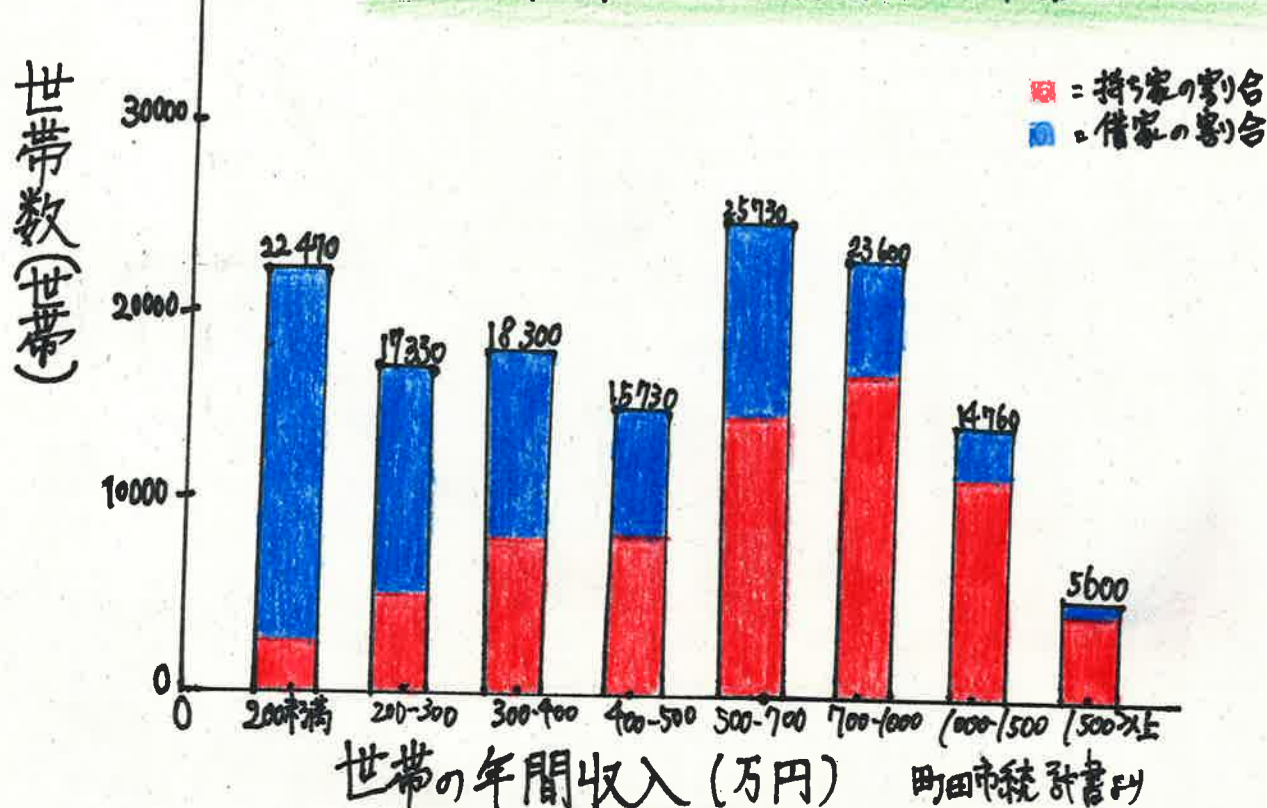


図3は図2と比較することが出来る。2003年~2013年の10年間でどのように変化しているかを読み取る。大きな違いとしては、200万円~400万円の階級における世帯数で、2003年は合計しても6万世帯にのぼらなかつたが、2013年は合計すると8万世帯とこえている。しかし、1000万円以上の階級の世帯数は、2003年より減少している。持ち家と借家の割合は、どの階級もあまり変化がみられないが、全体として世帯数が増加したことが分かる。図4、図5からは、一世帯当たりの居室の室数を読み、持ち家と借家でどのように違うのかも読み取る。(図4、図5は室数の平均を表している)

次のページへ続く。

図4 一世帯当たりの居住室の畳数(2013年)

世帯の収入階級	総数	主世帯	
		持ち家	借家
100万円未満	18.48	32.74	14.60(畳)
100~200 "	19.75	33.12	14.88
200~300 "	23.73	35.31	15.77
300~400 "	26.41	36.10	15.49
400~500 "	27.76	35.37	16.86
500~700 "	32.73	37.79	17.50
700~1000 "	36.14	38.50	24.13
1000~1500 "	39.74	41.09	24.36
1500万円以上	49.59	50.52	39.33

町田市統計書より

図4からは、一世帯当たりの居住室の畳数が読み取れる。収入階級が上がるほど、畳数も増加していることが分かる。また、図2、図3との関係から、100万円未満の階級では、持ち家の畳数が32.74だが、借家の方が世帯数が多いため、総数の平均が低くなっている。そして、全ての階級で見ると、持ち家の方が借家より畳数が多い。さらに、1500万円以上の階級を見ると、世帯数のほとんどが持ち家のため、総数の平均が49.59ととても高くなっていることが分かる。

図5 一世帯当たりの居住室の畳数(2003年)

世帯の収入階級	総数	主世帯	
		持ち家	借家
200万円未満	17.30	33.59	13.49(畳)
200~300 "	22.06	33.69	15.35
300~400 "	25.89	35.32	17.93
400~500 "	27.00	36.03	18.31
500~700 "	30.55	37.08	19.57
700~1000 "	34.83	37.96	24.12
1000~1500 "	38.83	40.63	26.84
1500万円以上	47.32	48.47	34.45

町田市統計書より
(資料 住宅・土地統計調査)

図5と図4は比較することができ、全体として、2003年より2013年の方が畳数が多くなっている。具体的には、1500万円以上の階級の畳数では、持ち家の方が48.47から50.52に増加している。2003年も2013年と同じく、持ち家の方が借家より圧倒的に畳数が多く、階級が上がるほど畳数も増加している。全体をまとめると、世帯総数の中心は持ち家が多く、借家は民間のものが多い。また、2003年~2013年の10年間に世帯数の増加とともに、階級別の畳数も増加しているということが分かった。